

カナダ——文学と風土

対談 ● ジャック・ホッジンズ／西本晃二

(作家) (東大助教授)

西本 今日ではカナダ文学についてお話を伺いたいと思います。先日お聞きしたホッジンズさんの講演の中で私が一番興味深く思ったのは、カナダ文学では自然に対して大変強い親近感を持っているという点です。日本文学の場合もやはり自然——日本の自然ということですが——に対する親近感是非常に強いものがある。そして私達が海外に行った時も、やはりその自然に大いに魅了されるのです。そこで、自然がカナダ文学の一部ともなったのはどうしてなのか、その辺の所からお聞きしたいのですが。

ホッジンズ 確かに、カナダ文学における自然の重要性は、過小評価できないと思います。日本文学もこの点で同じなわけですね。その一つの理由は、カナダではどんな所でも、たとえカナダ随一の大都市であっても、そこからほんの少し離れた所に行けばほとんど無人の自然、未開地が広がっている、ということにあると思います。

日本文学とカナダ文学の決定的違いは、その自然の性格にあります。日本文学における自然は、人々が非常に親近感をもっている自然といっていると思います。

これは両国の国土の違いでもあるのです。日本では、自然と人間との間に、互いに相手なしでは存続しえないといういわば共生関係があります。これはもちろん、文学だけでなく、日本人の生活信条においても重要な位置を占めています。それに対して、カナダでは、自然は人間より先にそこにあり、厳然として君臨する存在だったのです。多くの地域では、自然とは非友好的で、きわめて危険な存在です。

文学の中で見ると、人間対荒野、人間対自然の対立構造となって現われます。

人々は寒さで凍え死に、深い山で道を失ない、あるいは切り立った岩山から墜落する。自然が——あるいは一種の自然といった方がいいかもしれませんが——親近感ある存在として把握されるのは、おそらく十九世紀のカナダ詩人、それに比較的最近の詩人のロマン主義の中だけです。ただ、ブリティッシュ・コロンビア州の作家は例外です。カナダで自然を敵対的存在と感じない作家は、彼らだけでしょう。ご存知のように、B・C州では自然は敵対的でなく、とても住みよい気候ですからね。そこでは人々は、エミリ

ー・カーに見られるように、未開地の中にどんどん入って行きます。マーガレット・アトウッドの作中人物みたいに恐れたりはしません。むしろ未開の中に、神との関係を、あるいは宇宙的なるものの精神を見るのです。

西本 確かに日本の自然は、カナダとくらべて優しい、親しい性格に思われるでしょうね。しかしそれも表面においてのことであって、日本には台風とか地震とかいった自然現象がある。自然は時としてまことに危険きわまりないもの、われわれに大いに敵対するものとなるのです。自然は人間を時々打ちのめすものだという感情を、日本人はもっている。だからわれわれは自然を征服することよりも、自然と共に生きようとするんですね。ホッジンズ なるほど。

西本 アメリカ西部のいわゆるフロンティア文学には、この自然征服の衝動がよく見かけられるのですが、私が思うにカナダ文学の中にも時々見られるんじゃないでしょうか。

ホッジンズ ええ、大いにありますよ。カナダの特徴、カナダ文学の特徴をいうと、人間はよそ者だということです。カナダではあらゆる人間は風景にとってよそ者であり、だから自然との関係を自分から見出す必要があった。そこでフロンティア社会がまず最初にしようとしたことは、未開地をいわば飼いなすことだった。

イギリスのよく飼いなされた小じんまりとした地方からやって来た人々の最

初の衝動は、この未開地をもう一つのイギリスに作り変えることだったんです。あの素敵な、手入れの行き届いた小さな庭のあるイギリスにです。しかしそうすることが人間の自然の性向だとは、私は思わない。むしろそこに働いたのは、予測したいものに対して人間が抱いた恐れだと思っています。

日本には地震があり、台風がある。カナダには地震や台風みたいに激しい自然現象はありませんが、でも冬がある。地方によっては、日本の地震にも劣らない恐ろしい冬です。そこで、人々はどうするかというと、垣を作り、小さくて素敵な四角の囲い地ときれいな小さい庭園を作って、イギリスにいるような気分にするのです。これはもちろん一般論ですが、カナダ文学に現われている見逃せない特徴です。

西本 宗教的な態度との関係はどうですか。われわれの例でいうと、日本は大体において仏教国といっている。きわめて日本的な仏教ですが、そして仏教思想の一端として、いわゆる輪廻思想を持っています。生まれ変わる、ということですね。たとえば私は前世においてカエルだったかもしれない。そしてこの世で人間となった後、来世はまた別の存在に変わるのだという考え方です。このような考えからすると、人間と人間以外の存在との間には、さほど厳格な違いがなくなってくる。ところがキリスト教はそうではない。旧約聖書創世紀の冒頭で厳格な区別を行なっている。神が言っています。